

守恒SOSネットワークだより



第11号 平成26年11月1日発行
守恒SOSネットワーク会議

地域の中の私…日頃の備え、「わがこと感」で確実な防災を！

守恒 SOS ネットワーク会議では、年に1回様々な SOS に対応するという観点から、防災について学ぶ機会を設けています。今回は NPO 法人 ANGEL WINGS 理事長の藤澤健児さんをお迎えして、「防災！東日本大震災、日田・筑後水害の現場から」との演題でお話し頂きました。藤澤さんは多くの現場に足を運び 東日本大震災、日田・筑後水害では各地の社会福祉協議会の求めに応じて復興の陣頭指揮を執る等の実践経験をお持ちです。今年8月20日に発生した広島土砂災害の現場にも出向き、今回その様子も写真を交えてお話し頂きました。今問題になっているのは、地球温暖化に起因すると見られる台風の超大型化やゲリラ豪雨の頻発化、行政が避難情報を出すタイミングの難しさです。2008年から2010年の土砂災害発生件数は2,908カ所。そのうち災害発生前に避難勧告が発令されたのは92件。発生件数のわずか3%でした。(国土技術政策総合研究所・筑波大学「土砂災害警戒避難に関するデータ解析共同研究」より) 時間の予測、場所の特定がいかに難しいかを物語っている数字です。私たちは天候による居住地の変化に敏感になり行政の指示に頼ることなく、「もしも・・・」のときは、「確実に命を守る行動をとる」ことを日頃から考えておかななくてはなりません。幸いにして守恒は土砂災害等の起きにくい地域ですが、想定外の事態にも対応できるようにしておきたいものです。最近「早く逃げる」ということのみクローズアップされる中で、従前どこの家庭でも備えていた「水・非常食」のことがあまり言われなくなっていますが、是非備えておきましょうとのことでした。

震災後の仮設住宅では、新たなコミュニティを構築するために「とにかく集まってもらおう！」と藤澤さんら仕掛け人が、青空市を開いたり、麻雀対応のボランティアさんの配置で仮設住宅に閉じこもりきりの人を何とか地域の輪に加えようと奮闘していました。また、家を「新築」することになり仮設住宅を離れる人がこっそり「夜逃げ」のように出て行かなければならない等、住民どうしのデリケートな心の問題があることも知りました。

防災の学習を通して、どんな状態でどこに暮らしても「地域の中の私」であることを多くの人が意識し、「わがこと感」をもって対処することの大切さを改めて感じました。



リーフレット「防災の心がまえ」

市政だよりとともに、各家庭に配られている「防災の心がまえ」表題にあるように「あなたと家族の命を守るため」の大切な情報がコンパクトにまとめられています。

この機会に是非ご一読ください。

次回は、12月8日(月) 19:30分からです。

合馬内科クリニック院長、認知症・草の根ネットワーク理事 合馬絨先生をお迎えして、「認知症とはどういう病なのか」という演題でお話を伺います。守恒では平成22年度に5回シリーズで認知症の学習をしました。あれから4年。基本に立ち返ってわかりやすく、楽しく、認知症を学ぶ機会を設けました。 ※どなたでもご参加頂けます。一緒に学びませんか？

